

社会福祉法人 エンゼル福祉会
藤代なごみの郷
2024 年度事業報告書

(1) 育成

I 職員の知識・スキル向上

①認定特定行為業務従事者の技術担保

毎月の委員会の開催により、ヒヤリハットの共有、シミュレーターを使用して練習を実施。委員会の中では吸引の必要な方の情報交換をすることで安全に夜間実施することが出来、練習に関してもできていないところを互いに指摘し合うことが出来、インシデントは 0 にすることが出来た。

②内部・外部の研修への参加

委員会主催の法定研修への参加は各部署業務の合間を見て動画による視聴・訓練の実施ができた。外部研修への参加は施設長より委員会委員長や各部署・専門職へ投げかけたが、実際参加できたのは生活相談員の相談援助技術についてののみである。

③グループ合同研修への参加

7 年目研修 4 名参加

3 年目研修 6 名参加

入社時研修 11 名参加

II リーダー・責任者・管理者等のマネジメント力向上

① ユニットリーダーの育成

2025 年 3 月末までにユニットリーダー4 名の实地研修まで終了した。研修後、知識の習得や課題等がそれぞれ見え、実施内容の計画まで立案しているが、実施までの計画が立てられていないため、課題は見たものの実行に移すまでには至らなかった。2025 年度には実施し結果を出せるよう、計画をマネジメントシートに落とし込み半年に一度しっかり評価・修正でき、年度末には達成できるようにしていく。

その他、委員会活動に関しては 4 名全員がすべての委員会の所属し活動している姿が見られた。うち 2 名は委員長を経験。委員会主催研修の作成にも携わることが出来た。

新たなユニットリーダーの育成はできていない。

② 管理者・責任者の育成

法人管理者・責任者研修、グループ管理者研修へ参加。

月 1 回の管理者・責任者会議を行い、各部署の課題の共有、施設運営に関しての方針のすり合わせ等実施した。話し合いの中で、方向性がずれていることなく課題に向かって取り組む姿勢がそれぞれ見えている。

施設内の課題に対して真摯に向き合っている姿はあるが、自分のスキルアップのための行動（外部研修への参加、資格取得等）は見られなかった。

(2) 雇用 (採用)

I 新規卒業予定者の採用

- ① 2024 年度新規卒業生 2 名の採用。(高卒 1 名、専門卒以上 1 名)を目標にあげたが、1 名のみの採用となった。その 1 名に関しては実習に来た学生の為、実習先を就職先に選ぶ学生は多いとため実習生の受け入れはやはり重要である。今後も実習生を受け入れていく。また、実習中の指導者や施設長、職員のかかわりは重要となってくるため、受け入れ態勢を整えていく。

II 職員の採用 (中途採用)

①特別養護老人ホーム (短期入所含)

退職者 13 名、入職者 11 名と退職者に対しての入職者の補充が出来ていない。

紹介に頼らざるを得ない状況は変わらず、紹介が多くなっている。紹介会社を使って入職した職員の離職率は看護師 100%、介護は特定技能も入れると 22% (9 人中 2 名退職)、と高く看護師に関しては派遣の定着率も低い傾向にある。そのため、新たな職員を受け入れる体制、指導方法に関しては一つ一つ丁寧に対応し離職防止に注力する必要がある。

②通所介護

常勤 1 名の退職があったため、1 名採用。訪問介護と兼務している管理者がフルで現場に入っている状況があり、マネジメントに課題があるためもう 1 名採用できるようにしていく。

③訪問介護

体調不良や親の介護のためにお休みをする職員がいたが、その間の補充はなしで運営。訪問介護の求職者がいないのが現状。今後は特養を増員し、内部での移動も検討していく。

④居宅介護支援

退職者がいなかったため、採用なし。

【2024 年度面接者採用者数一覧】 ※採用者数 (面接者数)

求人媒体	介護職	看護職	総務	PT	介護助手	保健師	特定技能	計
ハローワーク					1 (1)			1
ネット媒体								
ホームページ	2(2)							2
職員紹介								
人材紹介会社	6(13)	3(5)		0(1)		1(1)	3(4)	13
直接電話	1(1)							1
合計	9	3		0	1	1	3	17

【2024 年度退職理由別一覧】

離職理由別一覧	従来	ユニット	通所	訪問	医務	居宅	総務	包括	計
転職				1					1
体調不良	2	1						1	4
結婚、妊娠、転居									
人間関係					1				1
高齢の為							1		1
その他	6	4	1		3				14
合計	8	5	1	1	4		1	1	21

離職率

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
介護職離職率	17.9%	19.4%	21.2%
全体離職率	17.1%	17.9%	20.3%

(3) 事業別計画

I 特別養護老人ホーム

- 90 床稼働率 ・ ・ ・ 98%以上 → 96.6%
- 防げる事故・入院の減少 ・ ・ ・ 入院総日数 700 日以内 → 472 日
- 加算の取得

① 安全に医療ニーズの高い方を受け入れ、事故 0

認定特定行為業務従事者（喀痰吸引、胃ろう栄養）の資格を取得している職員に対し、委員会の開催、吸引等の手技の確認をシミュレーターを使用し、指導看護師による技術確認を毎月実施。在宅酸素の受入れは今年度なし。その他インスリンの方、2024 年度はバルーンカテーテルの方が一時 8 名ととても多く入居されていた。看護師による臨時の研修会を開催するなどして事故予防に努め、事故なく受け入れることが出来た。

② 薬の事故 0

施設全体での薬のインシデントは 7 件発生（SS1 件、従来型 2 件、ユニット 4 件）。

内訳は落薬 2 件、誤薬 4 件、与薬忘れ 1 件。

落薬以外はマニュアル通りに実施していないことで発生しているため、マニュアルを徹底するようにその都度、または定期的に伝えるようにしているが防ぐことが出来なかった。

③ 転倒からの骨折事故 0

転倒を繰り返される方で何度も対策を講じてきたが防ぐことが出来ず、1 件発生してしまった。記録を細かく書くことで下肢筋力の低下や認知機能の低下などを早い段階でキャッチし、情報を共有。福祉用具を導入したり機能訓練を強化することで防いできた。

④ 防げる入院日数の減少

	入院総件数	入院総日数	肺炎での入院件数	肺炎での入院総日数
2023 年度	54 件	801 日	17 件	285 日
2024 年度	35 件	472 日	4 件	137 日

2024 年度は入院日数を大幅に減少することが出来た。

肺炎予防の取り組みについては継続目標として実施。

口腔ケアの徹底、無理しない食事介助、本人に合った食形態の提供を実施。

⑤ ユニットケアの取り組み

2023 年度 2 名ユニットリーダー研修が終了しており、2024 年度残り 2 名の研修が終了した。研修で立てた計画書に記載された項目はできていないが、毎月のユニットリーダー会議において課題の共有ができています。しかし、その場の課題や目先の業務にばかり目が行き、中長期的に実施しなければならない事、自分で立てた目標を達成させなければと言う事に対し、行動に移すことが出来なかった。

来年度には計画倒れとならないよう、マネジメントシートを用いて計画的に行えるようにする。

⑥ 感染症 2 次感染者 0

研修の実施、ガウンテクニック、嘔吐処理の実施研修を実施したが 12 月から 1 月にかけて、従来型・ユニットにおいて新型コロナウイルス、インフルエンザが蔓延してしまった。

換気が不十分のところがあったことと、感染者の隔離はできたものの 5 類になったこともあり、感染していない人の自室対応をしなかったことが蔓延した要因と考える。

コロナウイルスが蔓延している中、インフルエンザがユニットで発生しすぐに全員自室でなるべく過ごしていただくようにした結果、その後の感染者がでなかった。

⑦ 加算の取得

新たな加算取得はできていない。

Ⅱ 短期入所生活介護

数値目標 稼働率：110%以上 → 109.3% 目標達成

① 選ばれるショートステイとなる

居室内は常にきれいな環境を整えお迎えすることが出来るように環境を整えるように注力

した。TVの部屋を希望する方も増えてきたため、TV部屋の確保も行ってきた。また、余暇活動においては十分とは言えないが、ギター演奏に合わせた歌会や季節行事を実施。

② 看取り介護・医療ニーズの高い方の受入れ

新たに医療ニーズの高い方の相談はなく、従来通り受け入れが来ている医療依存度の高い方の受け入れは出来た。その中でも低血糖や事故なく受け入れることが出来た。

看取り期	インスリン	バルーン	ストマ	胃ろう	透析	褥瘡
1 名	4 名	3 名	1 名	1 名	2 名	2 名

③ 感染症 2 次感染者数 0

お迎え時の乗車前検温、本人・同居家族の体調確認、マスク着用の促し、施設で決めた感染予防対策を継続的に実施。特養で新型コロナウイルスが発生し、ショートステイのご利用者様も感染してしまった。ショートステイからの持ち込みはなかった。

Ⅲ通所介護

数値目標 1 日平均 27 名、年間総利用者数 8,300 名以上

→2024 年度 1 日平均 24.2 名 年間総利用者数 7490 名

年間感染症 2 次感染者 0 →2024 年度 0 件

年間車両事故 0 →2024 年度 0 件

① 1 日平均 27 名以上、年間総実利用者数 8,300 名以上

2024 年度も目標としていた数値に届かなかった。新規利用者数は年間で 37 名となり中止者数 32 名を上回り登録者数も前年度同月から 84 名→99 名と増加した。しかしながら長く利用されていた方の施設入所や利用日数が多い方の入院からの施設入所が多く、実利用者数が伸びなかった。イベントに関しては年間通して計画通りに実行でき、ご利用者に季節感や楽しさを提供できた。また畑での野外活動を通じてやりがいや主体性を引き出せる関わりも行った。利用者からは次に何を植える？などの言葉を頂くことができ、一定の効果は得られた。

② 取得できる加算の取得

2024 年度加算取得数 0 件。年度当初相談員 1 名に認知症実践者研修を受講させる計画だったが、正規職員 1 名が退職となってしまう、予定していた受講が難しい状況となってしまった。個別機能訓練加算においては看護師で対応予定であったが、看護師も人員的に不安定な状況で、落ち着くまで保留となった。

③ 感染症 2 次感染者数 0 名

2024 年度も継続的な感染対策が実施でき、チームで高い意識の中 1 年間活動できた。

また、ご家族の理解も深まり協力的な方も増えてきたことも蔓延を防げた一つの要因と考えられる。

④ 年間車両事故数 0 件

2024 年度は車両事故 0 件を達成する事ができた。2 カ月に 1 度のドライバーズ会議や社内の安全運転講習の受講など安全運転への意識を 1 年間高く保つことができた。

IV 訪問介護

数値目標 月平均登録者数 65 名 → 2024 年度月平均登録者数 59.3 名

感染症 2 次感染者数 0 → 2024 年度 0 件

車両事故 0 → 2024 年度 1 件

① 月平均登録者数 65 名

産休だったサービス提供責任者の斎藤が 4 月中旬から復帰し、サービス提供責任者 2 名体制で業務を行うこととなった。しかしながら新規を獲得するにあたり受け持つヘルパーが不足していて新規の依頼は月平均で 4 件ほどあったが思うように受け入れができず、登録者数も前年の平均と変わらなかった。

② サービス提供責任者の育成

サービス提供責任者が現場に出る時間が多く、外部研修へ参加できる時間を捻出できなかった。事業所内の研修はサービス提供責任者が中心となり振り返りを中心に実施ができた。

③ 年間感染症 2 次感染者数 0 名

感染症蔓延予防策が高い意識のもと継続的に実施ができていた。感染症に罹患した職員は数名出たが他の職員やご利用者に移すことなく業務を行えた。また、ご利用者もマスクの着用や体調不良時の事業所への連絡の協力もいただいていた。

④ 年間車両事故数 0 件 → 1 件

9 月に車両事故（前方不注意による追突事故）が発生してしまった。風化させないよう月例会議で振り返り、定期的に注意喚起を実施した。次年度は社内の安全運転講習も活用し、より一層安全運転の意識を高められるよう取り組んでいく。

V 居宅介護支援

数値目標 介護 95、予防 25 以上（常勤換算 2.5） → 介護 96.3、予防 28.2 目標達成

① 給付管理数介護 95、予防 25 以上の確保

2024 年の介護の平均が 96.3、支援が 28.2 となっており目標は達成できたが、年度末の給付管理数介護 100、予防 30 に関しては、それぞれ 95 と 28 と未達成となった。上記の給付管理数を達成するには業務の効率化などが更に必要。

② サービス事業所、地域との連携

シルバーリハビリ体操の運営委託に関しては、施設全体の協力もあり、無事に行うことが出来た。また、シルバーリハビリ体操の委託を通じて、1 級指導士等のボランティアとも交流が出

来た。今後はデイサービスなどでのリハビリ体操の実施など交流ができれば良いと思われるがそこまでには至っていない。

藤代みまもりたいの会合にも参加しており、民生委員や地域の方との交流も続いている。

③ 施設内の協力体制

前期に関してはショートステイの送迎など個別での協力が出来たりしていたが、後期に関しては、藤代または他の施設の祭りへの参加、餅つきなどの行事の参加になっている。

VI 地域包括支援センター

① 定期的なサロンへの訪問の実施は継続して行うことができています。

サロンについてはサロンの運営の中心となる方が高齢になってきていることもあり、中止となってしまうサロンも出てきている。

民生委員との情報交換については行うことができ、包括について周知をすることができたが、自治会への周知を行うことはできなかった。

② 双葉地区ではサロンつなぐの開設もあり、代表者と密に連絡をとりながら地域活動を行うことができた。またオレンジカフェをサロンつなぐで定期的開催をする事ができており今後も継続していく。

双葉地区自治会での講演や総会への参加も行うこともできており、双葉地区とは連携をとる事ができており、今後も継続していく。

③ 自治会やサロンでの介護予防講座については年 1 回の定期開催はできている。ただ決まった講座開催はできているが、こちらから声をかけて実施とまでは至っていない。

保健師 2 名体制となったのでこちらからの提案し、講座の開催を実施できるようにしていく事が今後の課題である。

VII 福祉有償運送

運営継続検討会、運営協議会へ参加し、課題の共有はできたが市役所としての動きはなく伝えるのみとなっている。また、ボランティアを集め情報交換会を実施した。個々の思いが強くルールを順守した運行ができていないボランティアもいるためすり合わせを行った。

運行自体は事故なく運行することができている。

ボランティア 1 名引退され、現在 8 名のボランティアで運行している。

VIII その他

① 夏祭りの定着

感染症の影響で夏祭りの開催を控え、再開してから 2 回目の開催となる。外で開催していた時と縮小はしたものの、内容に大きな変更はなく、昨年度より進化した開催となるように準備段階からご入居者・ご利用者とともに垂れ幕や装飾品を作成した。

開催時期は雨の確立が高いことと、熱中症のリスクもあることから室内開催を定着させる。
法人の協力を得ながら引き続き開催していく。

② 2024 年度避難訓練実施

2024 年 5 月 10 日	集中豪雨による小貝川決壊を想定した避難訓練
2024 年 7 月 14 日	総合防災訓練（通報、避難誘導、消火）
2024 年 9 月 13 日	地震を想定した連絡網訓練
2024 年 12 月 13 日	総合防災訓練（通報、避難誘導、消火）
2025 年 2 月 14 日	防犯訓練

③ 地域との連携の中では中学生の職場体験や大学生の介護等体験の受け入れを実施することで、将来を担う子供たちの育成も協力できるようにした。

教育課程の中でも地域との連携を強化した教育になってきているため、今後も中学校と連携した避難訓練やその他活動の実施、大学生を受け入れることで福祉に少しでも興味を持っていただけるような活動ができるようにする。